

たぐし

TAKUSUI
No. 725

兵庫の漁業人のための情報誌

3

March. 2017

発行 (一財)兵庫県水産振興基金



イカナゴ漁 (明石海峡)

山田隆義氏 旭日小綬章受章祝賀会 開催 淡路漁青連が淡路高校で出前授業

《今月の海上安全標語》～ 風は怖い!? ～

事故が起きたときは、何故か穏やかな風の時が多いと耳にします。

悪天候に比べて、緊張感が薄れるのかも知れませんね。海上ではいつも気を引き締めていきましょう!

気を付けて!! 事故が多いぞ 風の時 では、今月も安全操業で!

ようそろ

「ずっと真っ直ぐに」

(ようそろとは航海用語で「宜しく候」の意。主に船を直進させるとききの号令として使われる)

日進日歩

兵庫県漁業共済組合 大西 大輔



「日進日歩」。フィギュアスケートの羽生結弦選手が以前こんな事を自分の目標としてテレビのインタビュで言っていました。フィギュアスケートは技術の進歩が目覚ましく、今では世界のトップクラスで戦うには4回転ジャンプを何度も跳べないと戦えないようになってきているそうです。

羽生選手のこの言葉にはめまぐるしく取り巻く状況が変化していくなか、月歩ではなく日歩で成長していきたいという思いが込められており、なるほどと感心した覚えがあります。

ところで、私事ながら昨年3月に生まれた娘がちょうど1歳になります。こないだ生まれたばかりだなと思っていたら、あつという間に1年経っており驚いているところで時間の速さを痛感します。

生まれたての頃は泣いているか寝ているかのどちらかだったのですが、いつの間にか首もすわり、ハイハイをはじめ、最近では言葉を発したり(何を言っているかわかりませんが)、掴まり立ちをするようになってたりと、娘も日々成長しているのだなと感じているところです。

そんな一人娘のいる我が家ですが、最近世間的によく聞く問題に直面しました。保育所の問題です。

妻の育休期間の終わりも近くなり、4月からの保育所への入所を希望していたのですが、少し前に保育所の落選通知が届いてしまいました。

以前よりニュースなどでよく耳にしている問題でしたが、いざ自分がその当事者になってみると、思っていた以上に切実に困るものだと実感しています。

この「困った」という言葉、漁業の世界でもよく耳にする言葉です。

特に自然を相手にしている以上、天気の良い日が続きどうしても出漁することが出来なかったり、思いがけない不漁によって水揚げが大きく落ち込んでしまったり、漁師さんにとって困った状況になりがちです。

そういった場面で漁業共済や積立ぶらすがお役に立てるよう、私も日進日歩で頑張っていきたいと思っています。

CONTENTS

No.725 March. 2017

- 2 ようそろ
- 3 イカナゴ漁 始まる
漁業協同組合模範定款例の改正説明会 開催
- 4 山田隆義氏旭日小綬章受章祝賀会 開催
- 5 淡路高校で出前授業
兵庫県漁協青壮年部連合会臨時総会 開催
- 6 第20回「山田記念賞」表彰式・祝賀会 開催
- 7 兵庫県漁協青壮年部連合会主催研修会
神戸海上保安部からのお知らせ
- 8 高砂市漁連海難事故「ゼロ」を目指し講習会 開催
海難事故をなくそう
- 9 兵庫JCC通信
- 10 旬に想う
大輪田塾だより



表紙の言葉

「イカナゴ漁」(明石海峡)

(写真提供：JF兵庫漁連 北村 伸也さん)

兵庫県瀬戸内海側に春を告げるイカナゴ漁は、昨年と同じく3月7日に解禁されました。

漁業者による自主的な資源保護の取り組みの1つとして、大阪湾・播磨灘の漁業者間の話し合いにより解禁日が決定されています。

イカナゴの水揚げで賑わう漁港、イカナゴを買い求める客、釘煮を炊く薫り…

これら春の風物詩であるイカナゴや、その食文化を伝えていきたいですね。

イカナゴ漁 始まる！ ～今年は3月7日に解禁～

春の訪れを告げるイカナゴ漁が始まりました。
今年も県立水産技術センターがイカナゴ新子の数が少ないと予想したことを受け、2月28日（火）の試験曳き後、解禁日は昨年と同じ3月7日となりました。



当日は強風のため休漁となったところがありました。出漁したJFでは、くぎ煮に適した約40ミリの新子が水揚げされ、浜は待ちわびた解禁に活気づきました。
ただ、漁期前の予想のとおり水揚げ量が少ない状況が続いており、浜での入札価格や鮮魚店・スーパーでの販売価格が例年になく高値で推移しています。多くの漁船がイカナゴの群れを追っています。安全な操業でありますように。

漁業協同組合模範定款例の 改正説明会開催

改正説明会開催

1月23日（月）、兵庫県立のじぎく会館において、漁業協同組合模範定款例の改正説明会を開催し、県内から内水面を含めた58JF、60名が参加しました。

これは、暴力団員等が漁業権や漁場の利用に関する法令違反事件を引き起こすなど、漁業現場への介入が全国的な問題となっていることから、JFからの暴力団排除を目的に模範定款例が改正されたのを受けて、県水産課・JF兵庫漁連、兵庫県水産振興基金が開催したものです。今回の改正では①暴力団員等の組合加入の禁止、②組合加入時には暴力団員等でないことの表明・確約の提出、③暴力団員等が虚偽の申告により加入した場合は除名できることなどが定款に明記されます。また、暴力団員等に該当する疑いがある場合は、県水産課を通じて県警察本部に確認を行うことになりました。

今回の説明会では、県水産課が、改正の趣旨と概要、今後の手続きを説明したことに加え、県警察本部暴力団対策課から、最近の暴力団情勢として特に県内の暴力団の動向について詳しい説明があり、JFにおいても暴力団排除に積極的に取り組んでほしいことや、特に暴力団員等の疑いがある組合員や加入申込者があった場合は、必ず意見照会するよう要請がありました。

最後に、関連する「漁協等向けの総合的な監督指針」として、JF全漁連信用組織指導部から、①反社会的勢力による被害の防止、②法令遵守等管理態勢の構築に向けた取組み、③不祥事件等の対応の3点について、関連規程類の作成を始めとする上記監督指針への対応について説明が行われました。

各JFにおいては、この説明会を機に、まずは直近の総会で議決のうえ定款変更の手続きを進めていただき、変更後は系統団体・県水産課・県警察本部と連携を図りながら、暴力団排除をより一層進めていただきますようお願いいたします。
（文：兵庫県水産課・JF兵庫漁連指導部）

山田隆義氏旭日小綬章受章祝賀会が開催される 約300人が受章を祝う



2月19日(日)、神戸市内のホテルにおいて山田隆義氏(JF神戸市)の旭日小綬章受章祝賀会が全国から約300人が出席するなか盛大に開催されました。



田沼会長の挨拶

山田氏はJF神戸市におけるイカナゴ資源管理の取り組みや、JF兵庫漁連での燃油高騰対策、漁業者の悲願であった瀬戸内海環境保全特別措置法一部改正を成し遂げられたほか、今春の漁船保険組合の全国一元化にも大きく貢献されたことなどの功績が認められ、このたび旭日小綬章受章の栄に浴されました。



祝辞を述べる井戸知事、久元市長、末松議員

祝賀会では、主催者を代表しJF兵庫漁連 田沼 政男会長から、出席者に謝意を述べられた後、「今回の受章は兵庫の誇りであり、山田氏に倣い、今後このような章を頂ける方を輩出できる兵庫でありたい」と挨拶がありました。

続いて、来賓で発起人でもある兵庫県 井戸 敏三知事は「瀬戸法改正などの大事業を自ら先頭に立って推進してこられた。多くの人が期待を寄せる求心力のある方である。今後益々のご活躍に期待したい」と祝辞を述べられ、短歌の披露もありました。神戸市 久元 喜造市長は「神戸の食材を世界に広げるにあたり、今後ご指導賜りたい」、参議院 末松 信介議員は「リーダーとしての責任感、長年の経験に基づく直観力、説得力には感服する。この10年、人生に近道はない」という山田氏の言葉から様々なことを学んだ」とそれぞれ挨拶をされました。

また、衆議院 関 芳弘議員は「山田氏の粘り強さ、行動力が瀬戸法改正に結びついた。海や魚への情熱に溢れるお人だ」、水産庁 漁政部 大杉 武博部長は「幅広い見識と豊かな経験をお持ちの方であり、今後のご活躍に期待したい」、JF全漁連 岸 宏会長は「全漁連会長になってから、様々な場面でお知恵を頂いた。今後、全漁連は『人づくり』に取り組むので、またお力をお借りしたい」とお祝いの言葉を贈られました。

受章者挨拶で山田氏は、様々な出会いのエピソードを交えつつ「リーダーとは人より一歩前に出るものと考えているが、ついつい出過ぎしてしまうことがあつ

躍に期待したい」と祝辞を述べられ、短歌の披露もありました。神戸市 久元 喜造市長は「神戸の食材を世界に広げるにあたり、今後ご指導賜りたい」、参議院 末松 信介議員は「リーダーとしての責任感、長年の経験に基づく直観力、説得力には感服する。この10年、人生に近道はない」という山田氏の言葉から様々なことを学んだ」とそれぞれ挨拶をされました。



謝意を述べる山田氏

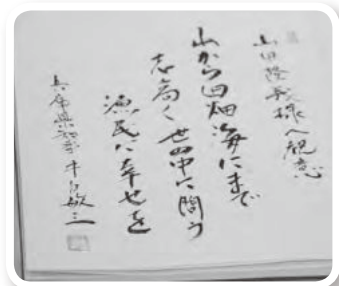


挨拶をする関議員、大杉部長、岸会長

この後、参議院 鴻池 祥肇議員の音頭で鏡開きが行われ祝宴に入りました。終始、和やかな雰囲気にも包まれるなか、中締めとして兵庫県議会 釜谷 研造議員から万歳三唱の発声、続いて(一財)兵庫県水産振興基金 東根 壽副理事長から閉会の挨拶があり、盛会裡のうちに幕を閉じました。



鴻池議員の音頭で行われた鏡開きの様子



井戸知事が贈られた短歌

淡路高校で出前授業

～高校生に島内漁業について語る～

淡路地区漁協青壮年部連合会（山崎 大輔会長）は、昨年度より洲本市農業青年会議（土屋 淳会長）と淡路島の一次産業のPRを図るため様々な取り組みを行っています。その一環として、島内の高校との連携を図るため、山崎会長らが兵庫県立淡路高校に出張授業を提案し、2月20日（月）の「農業経営」の授業で、花と緑と海のみぐみコースの2年生23名に対し、島内の農業と漁業の現状について講演しました。

冒頭、山崎会長は「今日の授業を通じて少しでも漁業に関心を持ってもらえたら」と話され、授業では淡路島内の漁協と主な漁業、漁法のほか、漁師になるにはどうすればよいのか、漁業権についてを説明し、最後に、「卒業後の進路に一人でも漁業や水産関係を思い浮かべてくれれば嬉しい」と締めくくりました。

また、土屋会長からは「どのようにしたら就農できるのか」と題し、淡路島に移住した自らの経験を紹介され、「地元の方々との繋がりは大切。自ら情報を得る努力をしてほしい」と話されました。

続く座談会では、生徒ら一人ずつに淡路島産のミカンとイチゴが配られ、一次産業の現状について意見を交わしました。また、色落ちしたノリと色のあるノリを手にとって食べ比べもを行い、山崎会長や漁青連の部員らからの、栄養塩の減少が漁業に与える影響に関する話に生徒たちは耳を傾けていました。



高校生と意見を交わす山崎会長と土屋会長（右）

兵庫県漁協青壮年部連合会 臨時総会開催

兵庫県漁協青壮年部連合会（山崎 大輔会長・JF淡路島岩屋）は2月17日（金）に、但馬水産センター（香美町）において臨時総会を開催し、県内各地区漁青連会長のほか行政、系統団体担当者ら約12名が集まりました。

今回は、但馬地区の沖合底びき網漁業が最盛期を迎えているため、淡路・摂津播磨の両地区漁青連会長が但馬に伺い、開催することとなりました。

総会では、山崎会長が「各地区の漁業が繁忙期を迎えるなか集まって頂き感謝します。来年度の事業計画等に積極的な提案を頂ければありがたい」と挨拶をされ、平成28年度収支予算進捗状況、来年度収支予算等に加え、現在、同連合会が実施している「若手漁業者研修会」の開催についても話し合われました。

この研修会は拓水でも紹介しているとおり、これまで4回の開催があり、新規漁業就業者の資質向上を目的とした「学びの場」としての役割と、県内で漁業を営む仲間との「仲間作りの場」として、淡

路地区漁青連で試験的に実施されてきましたが、今回の話し合いで、各地区漁青連でそれぞれ一度開催することが確認されました。

また、他県もしくは県内の各漁青連との意見交換や交流を図る場の検討を進めることになりました。

他にも、各地区漁青連の近況など活発な意見交換が行われ終了しました。



第20回「山田記念賞」表彰式・祝賀会 開催 ～本県水産業の発展に貢献された3名が受賞～



「山田記念賞」は、永年にわたり大きな夢と希望を抱いて本県水産業の発展に尽くされた故山田岸松氏を偲び、その功績を記念するため平成3年に創設されたもので、水産業の経営、技術に優れ、多年にわたり本県水産業の振興に貢献し、その功績が認められた方々に贈られる賞です。

今年も（一財）兵庫県水産振興基金（山田 隆義理事長）主催による同賞表彰式および祝賀会が2月

13日（月）神戸市内のホテルで開催され、県漁協等の関係者ら約80名が出席し、お祝いしました。

本年度受賞者は、河本 勝博様（JF神戸市）、菱谷 康人様（JF淡路島岩屋）、松本 齋様（JF

浜坂）の3名で、当基金 井戸 敏三会長（兵庫県知事）が受賞者・団体へそれぞれ「天与」と命名された「男女漁業者立像」レリーフを贈呈しました。山田 隆義理事長が主催者挨拶をされたあと、兵庫県 井戸 敏三知事は「本日受賞された3名の方は、先達としてこれまでの体験や培った技術を伝えてもらいたい」と挨拶をされ、「のり、かに、ふぐ、かき最盛期 続くいかなご、ホタルイカ 各季節の豊かさ」とした短歌を贈られました。また、受賞者を代表して河本様から謝辞がありました。

東根 壽副理事長（JF淡路島岩屋）の開宴挨拶に始まった祝賀会では、参会者一同、受賞者の榮譽をお祝いし、終始華やかな雰囲気包まれるなか、JF兵庫信漁連 中川 照央会長が万歳三唱を行い、幕を閉じました。



井戸知事から受賞者へレリーフが手渡されました。



【山田記念賞受賞者】（前列のみ左から）山田理事長、田沼会長、河本 勝博様、菱谷 康人様、松本 齋様、井戸知事

AISについて学ぼう!

~兵庫県漁協青壮年部連合会主催の研修会~



兵庫県漁協青壮年部連合会(山崎大輔会長・JF淡路島岩屋)では、昨年から若手漁業者を対象とした研修会を開催しています。4回目となった研修会は2月7

日(火)にJF淡路島岩屋会議室で開催され、新規漁業業者をはじめ青壮年部員や関係者ら約20名が集まりました。この日は話題提供者として国立研究開発法人水産研究・教育機構水産大学校 松本浩文講師を迎え、「小型漁船での操業安全に向けた取り組み」位置情報と映像記録の活



話題提供を行った松本氏

用」と題した話がありました。講演では、AISの有効性や発信される情報の分析などの話のほか、実際に山崎会長の船に搭載されたドライブレコーダーの映像が紹介され、AIS情報と映像が連携し、より正確な船舶間の正確な位置が分かるといった相乗効果について解説がありました。最後に松本講師は「安全は自分のため、家族のためである」と締めくくられ、研修会は終了しました。

AISとは
AIS (Automatic Identification System) の略。周囲のAIS搭載船同士や海上保安庁の組織である海上交通センター(マーチス)との間で、各船の識別番号、船名、船位、対地速度、行き先等についてVHF電波を利用して情報を共有し、AIS搭載船同士の衝突防止等に役立てられるもの。500トン以上の貨物船や旅客船等には設置が義務づけられる。なお、設置義務のない漁船等の小型船舶にも簡易型AISは設置可能で、海上交通の輻輳する海域では、簡易型AISを漁船に設置し安全操業に活用しようという試みがある。



いかなご盛漁期における事故防止について

神戸海上保安部からのお知らせ

3月7日いかなご新仔漁が始まりました!

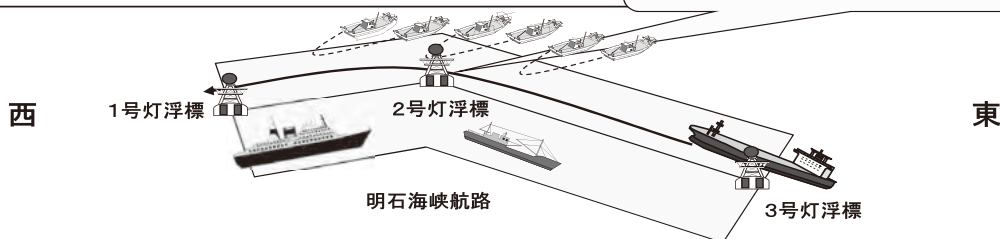
- 見張りの徹底をお願いします(操業中、帰港中も徹底してください!)
- 大型船、外国船、高速航行カーフェリー・旅客船、内航船の動静に注意
- 外国船など航行経験少なく、漁業形態不知の船舶も存在

衝突海難、漁網切断等のおそれ

- 可航幅の確保をお願いします
- 巨大船等通航時の可航幅を確保してください!
- 巡視船艇の指導、要請に従ってください
- 電光掲示板のメッセージ、拡声器等による呼掛けに協力してください!
- 救命胴衣を着用してください
- 自身はもちろん、家族のためにも着用しましょう!



航路の中央線寄りに大型船が通航できる水域の確保を。特に2番ブイ付近は変針のための十分なスペースが必要です。



高砂市漁連 海難事故「ゼロ」を目指し講習会開催

漁船の海難事故「0（ゼロ）」を目指して、高砂市漁業組合連合会（松本力会長）は毎年この時期に「漁船海難防止講習会」を開催し、操業安全指導とライフジャケットの全員着用を呼びかけています。今年も2月14日（火）、高砂市「青年の家」で加古川海上保安署及び兵庫県内海漁船保険組合から講師を招き、来賓の高砂市登幸人市長や系統団体関係者をはじめ、JF高砂・JF伊保の漁業者約50名が参加しました。

講演はまず、加古川海上保安署 島中第一地域防災対策官、中村一也署員から「船舶交通の安全について」があり、最近の海難発生状況やノリ漁場侵入事故例、海難防止チェックポイントなどの説明と、万一の時には「118番」への通報、ライフジャケットの常時着用の徹底などの指導がありました。また、内海漁保 沢辺専務は「漁船の海難事故並びに訴訟実例について」として、訴訟実例にもとづいた海上衝突予防法並びに過失割合の適用等について講演を行いました。最後に系統5団体（JF兵庫漁連、共水連兵庫、内海漁保、豊かな海づくり協会、振興基金）が行う「命を守る運動」ライフジャケット



この日講演を行った島中地域防災対策官（左）と沢辺専務

トで安全操業を」との一環で作成したDVD「ライフジャケットで安全操業」の視聴では、ライフジャケットの着用の重要性について学び、最後に、同市漁連 木村 魏理事（JF高砂荒井支所長）の挨拶で閉会しました。

海難事故をなくそう！

ライフジャケットを着用しよう！

ライフジャケットを着用することで助かる可能性は飛躍的に向上します。

自分自身のために、そして、家族のために是非、着用してください！

（平成30年2月ライフジャケット着用義務化はじまる！）

▶ライフジャケットと浮力合羽モデル：拓水編集委員の皆さん



**～安全をサポート～
浮力合羽はお持ちですか？**

浮力合羽はJF兵庫漁連が開発したもので、皆様の安全をサポートします。

浮力は充分にあり、動きやすいように工夫されています。

まだお持ちでない方は是非！

※国土交通省の型式承認試験基準に合格したものではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください。

ライフジャケット・浮力合羽の購入は
所属JFかJF兵庫漁連のり海藻部資材担当（078-942-9272）までお問い合わせください

畠 一希さん(JA兵庫六甲)が 最優秀(県知事賞)を受賞 ～JA営農指導員研修大会～

JA兵庫中央会

JA兵庫中央会は2月17日(金)、平成28年度JA営農指導員研修大会を県農業会館で開催し、JA営農指導員および関係者ら約90人が参加しました。

この研修大会は、JA営農指導員が日頃の活動実績を発表し、相互研鑽を図ることを目的に開催しています。8JAから営農指導員の活動実績発表が行われ、「黒大豆枝豆ができる三田の農業を守る3つのこと」と題して発表したJA兵庫六甲の畠一希さんが最優秀の県知事賞を受賞しました。

畠さんは、「1枚のチラシで経営の全てを」をコンセプトに黒大豆枝豆のJA出荷のメリット・販売実績・栽培方法等をまとめたチラシを作成後、それを使って提案活動を行い、栽培面積が6.3ha、栽培者が49人それぞれ増加するとともにJAシェア率を向上させた成果を発表しました。審査委員長の兵庫県立農林水産技術総合センターの茶谷達人部長は「組合員の所得の向上と販売力強化など農協改革で求められている課題に注力されている」と講評しました。

他の発表者は次の通りです。JA兵庫西・井上靖子さん(中央会会長賞)、JA兵庫南・沼田峻太さん(全農兵庫運営委員会会長賞)、JAみのり・藤本昌宏さん、JA兵庫みらい・永田健さん、JAたじま・植田雅重さん、JA丹波ささやま・山崎久敬さん、JA淡路日の出・東田和久さん



活動実績発表の発表者と審査員

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

地方消費者フォーラム in ひょうご

「広げよう地域へ!つなげよう 世代を超えて!」

2月20日(月)、兵庫県農業会館で「地方消費者フォーラムinひょうご」が開催され、「広げよう地域へ!つなげよう世代を超えて!」をテーマに、近畿2府4県で消費者問題に携わる消費者団体、市民、行政関係者など244人が集いました。今年で7回目となるこのフォーラムは、地元の消費者団体、行政による実行委員会と消費者庁との共催で実施され、相互に情報交換を行い、交流・連携を深めることを目的としています。

午前は映画「チェンジメーカーズ～消費者の権利のための闘い」をNPO法人消費者ネットジャパン理事長 タン・ミッシェル氏の解説とともに上映し、午後からは全体会が行われました。

18団体が参加した「壁新聞交流会」では、各団体の活動展示の前で活発な情報交換が行われ連携を深めました。消費者庁 吉井 巧 審議官のご挨拶のあと行われた壁新聞出展者(13団体)のリーレートークでは、消費者トラブル防止へのさまざまな取り組み報告が、コント等を交えて行われました。また、兵庫県「消費者市民社会づくりへのくらしのヤングクリエイター(大学生)」、神戸市「消費者教育についての“消費生活マスター”」、滋賀県高島市「地域共生社会を民間発で創造する生協と社協による住民の暮らしを支えるプロジェクト～たかしままるごとキャラバン隊の始動に向けて～」の取り組み報告がありました。その後「今日学んで、気づいたことは何ですか?」をテーマにてワークショップを行い、各地域における消費者問題の解決につながる集いの場となりました。



◀ワークショップで
交流を深めました



▶壁新聞出展者リー
レートーク

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>

お詫び

平成29年2月発行の拓水第724号で下記について表記に誤りがありました。関係者の皆様には大変ご迷惑をお掛けいたしました。ここに訂正して、お詫び申し上げます。

5頁 「第54回淡路農林水産祭 開催」の表【当日、表彰を受けられた方】

(誤) 杉本 富弘 → (正) 杉谷 富弘 (敬称略)



旬に想う

写真と文
遊方子



聴覚・耳のこと

◆甥っ子に長男が生まれ、祝いを持参したら睡眠中で、可愛い顔をして実にいい寝顔だった。父親似で小型のお父さんだと評したら、母親が嬉しそうに微笑んでいた。耳の形も父親そっくりで、耳たぶが広くて大きい。耳たぶは集音装置であり「耳介」と呼んで、形が貝殻に似ている。多くの動物は、耳介を立てて音源に向け動かす事ができる。人には出来ない芸当だが、稀に動かせる人がいて驚かされる。江戸期に『北越雪譜』を書いた鈴木牧之は、五十歳の冬に難聴となり、晩年は螺貝を耳に当てて話を聞いたため「螺耳翁」と名乗っている。

◆小咄の名作。「婆さんや、今そこを通ったのは横丁の源兵衛さんじゃないか」いいえ、あれは横丁の源兵衛さんですよ「そうかい、私はまた横丁の源兵衛さんかと思つた」此の短い話は、耳が遠くなつた老夫婦の平和な日常を活写しており、実に見事な話芸となつている。最近、家人が独り言で何か言うのを、私に何か言つたのかと聞き返す事が多くなつた。左右ともに耳鳴りが酷くなつて来たせいである。左は時計の秒読みのようなコチコチが聞こえ、右は遠くの潮騒のような鳴音が絶えずしている。此のため聞き取り難く、聞き間違いをしているが、肉体的に消耗してゆく機能の劣化であり半ば諦めてはいる。

◆耳を殴られたり、異常に強い音を聞いた後に、ワーンという聴覚異常が起きる。暫くは何も聴えない。耳鳴りはあの時の感じに似ているが、昼間は日常の騒音に紛れて判らず、静まり返つた深夜、耳奥で鳴り響いておりよく判る。「耳鳴り」は殆どの人が経験する事という。自律神経の失調が原因らしいが、耳鳴りの原因究明はかなり難儀な検査になる。それは第三者が聞くことの出来ないもので、どんな音で大きさはどの程度か、表現できるのは本人だけである。精神的な不安に起因する場合、精神安定剤が効果を上げた事もする。

◆原因究明が厄介な病いは、治すのも難しい。耳鳴りの音には個人差があつて、電子音や金属音に似た「キーン・ピーン」や、「ポー・ゴー」という低音のもの、虫の声のような「シー」「ザー」という高音や「シュー」と風の吹くような雑音性のもので、単音でない複雑に混じつた音など。これらを客観的に判断するため、色んな検査方法がなされる。周波数を調べれば音の高さが判り、その周波数の雑音を使って音域の幅も推定できるという。老化に起因する難聴や聴覚路の委縮や変形で起きるものは補聴器でカバーできる。難聴によって家庭内で孤立しないよう、周囲の人達には気配りや思いやりが必要なのである。

大輪田塾だより

2月講座と

第20回山田記念賞に出席



聴講も併せて30人を超える講座となりました

2月講座は、14日(火)に水産会館会議室で開催し、塾生、聴講者を含め約30人が集まりました。

「イカナゴ」について考えるは県立水産技術センター 反田 實参与が、イカナゴの生態や資源の状況、夏眠のための砂、栄養塩との関係について話をされました。イカナゴ漁期前ということもあり、塾生の関心は高く、質疑応答では様々な意見が交わされました。続く「伝えるということ」新聞記者の視点から」では、神戸新聞社 金山 成美記者が講師を務められました。記者として、どのような考えで取材をし、記事にまとめていくのかを具体的に示し、「記者は取材相手の想いを翻訳して伝える仕事」と話されました。また、文章の書き方や、情報の伝え方など、普段なかなか聞くことが出来ない新聞記者の手法や考え方の話に、塾生は興味深く聞き入っていました。

また、13日(月)に開催された「第20回山田記念賞表彰式・祝賀会」では12期生4名が、兵庫県 井戸 敏三知事をはじめ漁協関係者らの前で挨拶をし、塾での抱負を述べました。



紙面づくりについて話す金山記者



大輪田塾での決意を述べる12期生の皆さん